

編集後記

東日本大震災、および、その後の余震などで亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、被災地を援助していただいている国内外の皆様に、心より感謝の意を表したいと思います。

この大震災では、被害の大きさに圧倒されると同時に、社会が抱える構造上の問題を目の当たりにし、苦しめられることになりました。大津波や原発事故といった大きなニュースに隠れた感がありますが、大きなビルの倒壊などがなく、3日程度で電気・水道が復旧した市街地においても市民を長く苦しめたのは、停滞した物流と人の流れでした。

支援物資が運べない、食材が手に入れにくい、暖房用の灯油が底を突く、物の移動ができない、配達ができない、職場に通えないなど、元をたどると車の燃料不足が問題の根源にあったと思われます。非常に危うい基盤の上に生活が成り立っているような気がしてなりません。

私事で恐縮ですが、私にとっては一番辛かったのは、22年にわたって震度5を何度も経験し、この建物は比較的安全だと信じていた自宅マンションが近所で最も被害が大きく、分厚い壁が割れて柱の鉄筋が見えるような状態になったこと、そして、電気も通じていない暗闇の中、独りぼっちで家財を引っ張り出し、緊急の引っ越しを行ったことでした。モノに対する価値観も大きく変わりました。センターおよび研究室の被害が大きくなかったことは幸いです。

本学はもちろんのこと、被災地そして日本全体の、いち早い復興、できれば進化的・創造的復興ができることを願っています。[後藤 英昭]

3月に発生した東日本大震災から1ヵ月近く経ちました。地震直後の電気の消えた町並、蛇口から水のでない生活、食料やガソリンを求める長蛇の列など今までに経験したことのないようなことが発生し、先の見えない状況が続いてきましたが徐々にこのような環境から脱しつつあると感じております。センターで提供しているスーパーコンピュータ、並列コンピュータにおいては、計算機自体や建物の被害が計算機サービスを長期間停止するようなものではなく、利用者に提供できる環境にあります。今年度も、これまで以上に利用者の利用しやすい計算機環境を提供し、がんばって参りたいと思いますので、みなさまの研究に役立つツールとしてセンターのスーパーコンピュータ、並列コンピュータを利用して頂ければと思います。[小野 敏]



サイバーサイエンスセンター前
整備中の青葉山新キャンパス

SENAC 編集部会

小林広明 曾根秀昭 水木敬明 後藤英昭
江川隆輔 山内 斎 小野 敏 高橋洋一
斉藤くみ子

平成 23 年 4 月発行

編集・発行 東北大学
サイバーサイエンスセンター
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
郵便番号 980-8578

印刷 大成印刷株式会社